

ABSOLUTE 60 FLY

アブソルート60フライ

居住性の高さを新しいかたちに 実した60フッター

ニューモデルとして発表されたアブソルートのプランニュー。
を生かしたフライブリッジやコクピットの斬新な空間演出や、
を具現化したキャビンレイアウトが魅せる居住性にも注目。

写真=アブソルートヨット
photos by ABSOLUTE

なデッキハウス
一見しただけ
られる一艇だ。
モデル(cut
注日

アブソルートは、2002年創業。短期
間で大きく成長したビルダーである。

同社の現行ラインアップは、47~72
フィートクラスに7モデルのフライブリ
ジシリーズと、48~73フィートクラスに
6モデルのナヴェッタ(Navetta)シリー
ズだが、早くも2022年に向けたプラン
ニューモデルが発表された。

そのうちの1モデルは、ここでご紹介
するフライブリッジシリーズの「60フラ
イ」。もう1モデルは、別項で紹介する

「48クーペ(48 Coupé)」である。

これら2モデルについては、2020年
10月23日にインターネットを介してオン
ラインで行われたプレスカンファレンス
において概要が公表されている。

60フライプロジェクトの概要説明によ
ると、このモデルは、2021の初夏に内覧
会的なプレビューとプレス向け試乗会を
予定。9月7~12日に開催されるカンヌ・
ヨットフェスティバル(Yachting
Festival Cannes)で、正式なワールド
プレミアが行われるという。本誌が刊行
されるころには、プレビューを終えてい
るはずだ。

アブソルートのラインアップにおいて、
フライブリッジシリーズの60フィートク
ラスは2モデル目。先代も今回と同じ60フ
ライという名称で、2015年モデル(発表
は2014年)としてデビューし、2020年ま
でラインアップされていた。今回のモデ
ルは、いわばその後継だが、エクステリ
アも、インテリアも、まったくのプラン
ニュー世代のモデルである。



での楽しみを最大限にするであろう、フライブリッジやコクピット、さらにフォアデッキ部分のラウンジなどのアレンジは、きわめて魅力的なコクピットは広い。トランサム部分の手すりにガラスを用いていることもそれを強調している。さまざまなオプションでレイアウトも変更可能なフライブリッジ、コクピット、スィムプラットフォームといった船尾周りのスペースは、このモデルのきわめて特徴的な、そして魅力的な部分だ

乾舷のハルに大型デッキハウスを備えたスタイリングは、いかにも居住性を高めた、最新のモーターヨットからみれば、舷窓の大きさやデッキハウスのガラス面積などからも、キャビンの居住性の高さが想像できる。

フライブリッジの船尾端やコクピットトランサム部分には、透明ガラスを用いた手すりが備わり、開放感や涼やかさを演出。フォアデッキのサンパッドとデッキハウス前部のシートで構成される船内ラウンジは、より大型のモデルのそれと比べると、余裕ある造りだ。

キャビンは3ステートルーム・ギャレリーを備えたレイアウトは、多目的コクピットを兼ねたケースなども想定したものが、きわめて窓面積が大きなデッキハウスは、開放感たっぷりだ、こちらも居心地がよさそうだ。

フォアデッキは、マスターステートとトランサムを広く取ったレイアウト。船首にヘッド/シャワーを設けたため、ベッルームは、とても広々感のある平面形だ。

パワーユニットはボルボ・ペンタのIPS950(725馬力)を2基掛けで搭載。優れた航走性能と強力なマニョビリティが期待できる。



上: マスターステートである船首室は、そのレイアウトの巧みさによって、このスペース特有の「先ずほまり感」を払拭。特大舷窓で得られる風景は、この部屋の所有者たるオーナーだけが味わえる。下: 船尾側左舷にギャレリーを配したレイアウトは、コクピットでの食事などを想定しているが、ギャレリーの反対舷に普通のダイネットもある。床が一段高い船首側はサロンエリア。窓は巨大である

S P E C I F I C A T I O N S

ABSOLUTE 60 FLY

- 全長: 18.66m ○全幅: 4.94m
- 燃料搭載量: 2,800L ○清水搭載量: 730L
- エンジン: ボルボ・ペンタ D11-IPS950 (725PS/533kW) × 2

問い合わせ:

テクノマールインターナショナル
〒336-0965 埼玉県さいたま市緑区問宮607-1
TEL.048-878-6806
<https://www.tecnomare-yachts.co.jp/>



左: 舷側船尾端は「カットオフテール(cut off tail)」スタイル。トランサム部分はガラス張り。これがアブソルートの最新トレンドだ。右: きわめて大型の舷窓やガラス張りのデッキハウスなどは、このモデルの居住性の高さを示すスタイリング上の特徴というべきところとなっている

ABSOLUTE 48 COUPÉ

アブソルト48クーペ



コクピットは「テラススタイル」のくつろぎ空間。ガラスを用いた透明なトランサムを備えているため、開放的でありながらも、ある種の「囲まれ感」もあって、独特な雰囲気を作り出している

新しいクーペモデルが目指したものは スポーティーさと高い居住性の両方

別項でご紹介している60フライと同時に発表された、もう一艇の2022年向けニューモデルが48クーペである。

アブソルトには、もともとスポーツヨットと名付けられた、エクスプレスクルーザー系のクーペシリーズが存在していたのだが、同シリーズは2020年モデルを最後にフェードアウト。この48クーペは、新たなコンセプトで建造された、新世代のクーペである。

なお、60フライと同様、この48クーペも2021年9月7〜12日に開催されるカン・ヨットフェスティバル(Yachting

Festival Cannes)で公式に発表される予定となっている。

スタイリングが与える印象通り、このモデルは、クーペと称されつつも、居住性に対する配慮がしっかりとなされたモデルというべきだろう。キャビンは3ステートルーム・ギャレリーアップ。ほぼガラス張りとして表現できそうなデッキハウスは、その最船尾側にギャレリーを備え、テラススタイルのコクピットでの食事などへの対応を考慮したもの。ルーフに備わるソーラーパネルの発電量は、なんと2キロワットだという。

ローデッキのプライベートルームは、斜めにバースを配して広さを確保した船首室がマスターステート。ミジップの両舷にゲストルームを備える。

パワーユニットはボルボ・ペンタD6-IPS650(480馬力)の2基掛け。適度なスポーティーさやマニョビリティを確保しつつ、燃費に対する配慮も感じられる選択である。

別項でご紹介している60フライと同様に発表された、もう一艇の2022年向けニューモデルが48クーペである。

スタイリングが与える印象通り、この

S P E C I F I C A T I O N S

ABSOLUTE 48 COUPÉ

- 全長: 14.90m ○全幅: 4.52m
- ボルボ・ペンタ D6-IPS650 (480PS/353kW) × 2

問い合わせ:

テクノマールインターナショナル
TEL.048 878 6806
<https://www.tecnomare-yachts.co.jp/>

